

広田遺跡ミュージアム・南種子町郷土館

館報 第7号

令和5年3月

南種子町広田遺跡ミュージアム

広田遺跡ミュージアム 館報

広田遺跡ミュージアム 館報 目次

第1章 館の概要

第1節 館の概要と組織…………… P1

- (1) 館職員数内訳
- (2) 館職員名簿
- (3) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会
- (4) 館職員事務分掌

第2節 利用状況…………… P2

第2章 館の事業

第1節 展示…………… P2

- (1) 企画展
- (2) エントランスホールの展示
- (3) イベント

第2節 教育・普及啓発…………… P3～P5

- (1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員
- (2) 学校, 一般向け館利用
- (3) 出前講座・研修・博物館実習・職場体験等

第3節 管理・運営…………… P5～P6

- (1) 広田遺跡語り部の会
- (2) 視察等
- (3) 広報
- (4) 文化財の保存・管報
- (5) 防火・防犯訓練

第4節 調査・研究…………… P6～P16

- (1) 調査・研究
- (2) 研究報告

島間田尾大光山本妙寺の盆踊「大二才, 小二才」の復活に向けての取り組み
南種子町文化財保護審議会委員 野首久教

第1章 館の概要

第1節 館の概要と組織

(1) 館職員数内訳

令和4年度

役職	専任 正職	兼任 正職	非常勤	専任 会計 年度	計
館長		1			1
学芸員	1	1		1	3
庶務係		1			1
学芸員補				1	1
受付事務				1	1
合計	1	3	1	3	8

※上記の他、語り部を1日1名配置。
 ※常任の学芸員1名を配置する博物館相当施設である。

(2) 館職員名簿

役職	氏名
館長	濱田伸一(社会教育課長兼務)
学芸員(専任)	石堂和博(文化係長兼務) 豊島巧(郷土館学芸員兼務)
学芸員(兼任)	小脇有希乃(町埋蔵文化財センター学芸員兼務)
庶務係(兼任)	吉本利江(~4月30日まで)
学芸員補(事務)	牛野夢美
受付事務	上浦絵瑠

(3) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

○委員名簿

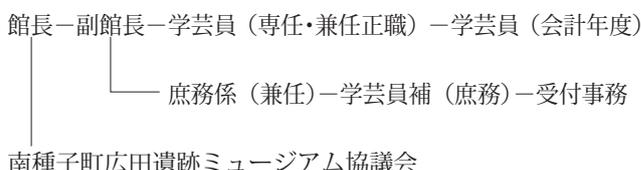
令和4年度			
会長	柳田和則	副会長	宮里照夫
委員	向井良隆, 大脇光矢, 野首久教		

開催日: 令和4年4月15日(金)
 場所: 南種子町研修センター2階東側会議室
 協議: ・入館者等状況, 令和3年度事業実績, 令和4年度事業計画, 運営計画, 重要文化財等

(4) 館職員事務分掌

役職	氏名	主な職務分掌
館長	濱田伸一 (課長兼任)	館の運営管理の総括に関すること
学芸員 (専任)	石堂和博 (文化係長兼任)	常設展示・特別展示に関すること 資料の収集・保管に関すること 重要文化財の保管に関すること 館報・図録その他刊行物の作成に関すること 専門的調査・研究に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 体験学習に関すること 他の施設, 学校等との連携に関すること 予算の編成執行に関すること
学芸員 (兼任)	小脇有希乃	普及啓発・講座・広報等に関すること
学芸員 (兼任)	豊島巧	文化施設の管理・学芸に関すること 資料の収集・保管に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 博物館協力団体の育成に関すること
庶務係 (兼任)	吉本利江 (~4月30日まで)	館の管理に関すること 予算経理, ミュージアムショップその他庶務の総括に関すること 運営協議会に関すること 史跡公園の管理に関すること
学芸員補 (学芸)	牛野夢美	館, 史跡公園の案内業務に関すること 受付・観覧料等の徴収に関すること 予算経理, ミュージアムショップその他庶務に関すること 体験学習に関すること
受付事務	上浦絵瑠	受付・観覧料等の徴収に関すること 館, 史跡公園の清掃及び管理に関すること
語り部	長田君應 ほか9名	館, 史跡公園の案内業務に関すること 館, 史跡公園の清掃及び管理に関すること

組織図



第2節 利用状況

(1) 利用者数

年度	利用者数(人)	町内	町外
26	2,429	1,268	1,161
27	11,225	3,064	8,161
28	7,226	1,899	5,327
29	7,520	1,619	5,901
30	6,194	1,231	4,963
令和元	6,176	1,414	4,762
2	4,021	1,720	2,301
3	4,049	1,242	2,807

(2) 体験学習利用者数

平成27年度 981名, 350,500円
(初級775名 232,500円, 中級176名 88,000円, 上級30名 30,000円)
平成28年度 805名 340,600円
(初級402名 120,600円, 中級366名 183,000円, 上級37名 37,000円)
平成29年度 699名 275,100円
(初級442名 132,600円, 中級229名 114,500円, 上級28名 28,000円)
平成30年度 548名, 229,400円
(初級313名 93,900円, 中級203名 101,500円, 上級31名 31,000円, 特設1名 3,000円)
令和元年度 503名, 227,900円
(初級258名 77,400円, 中級193名 96,500円, 上級51名 51,000円, 特設1名 3,000円)
令和2年度 182名, 74,500円
(初級120名 36,000円, 中級55名 27,500円, 上級5名 5,000円, 特設2名 6,000円)
令和3年度 507名, 241,300円
(初級156名 46,800円, 中級313名 156,500円, 上級38名 38,000円)

(3) 書籍販売

平成27年度 売り上げ：53,500円
(郷土誌4冊, 広田遺跡報告書6冊, 南種子の民俗9冊, 南種子の民具6冊, 南種子の文化財6冊, 南種子の文化財21冊)
平成28年度 売り上げ：34,000円
(郷土誌4冊, 広田遺跡報告書2冊, 南種子の民俗7冊, 南種子の民具2冊, 南種子の文化財6冊, 南種子の文化財18冊)
平成29年度 売り上げ：31,500円
(郷土誌4冊, 広田遺跡報告書3冊, 南種子の民俗5冊, 南種子の民具2冊, 南種子の文化財8冊, 広田遺跡ミュージアム館報3冊)

平成30年度 売り上げ：41,500円

(郷土誌0冊, 広田遺跡報告書6冊, 南種子の民俗2冊, 南種子の民具2冊, 南種子の文化財11冊, 広田遺跡ミュージアム館報4冊, 南種子の神社仏閣24冊)

令和元年度売り上げ：21,000円

(郷土誌3冊, 広田遺跡報告書1冊, 南種子の民俗4冊, 南種子の民具0冊, 南種子の文化財5冊, 広田遺跡ミュージアム館報1冊, 南種子の神社仏閣7冊)

令和2年度売上：12,000円

(広田遺跡報告書1冊, 南種子の民俗1冊, 南種子の民具1冊, 南種子の文化財2冊, 広田遺跡ミュージアム館報6冊, 南種子の神社仏閣6冊)

令和3年度売上：11,500円

(広田遺跡報告書1冊, 南種子の民俗2冊, 南種子の民具3冊, 南種子の文化財2冊, 広田遺跡ミュージアム館報1冊, 南種子の神社仏閣6冊)

(4) 開館日数

平成27年度 315日
平成28年度 314日
平成29年度 308日
平成30年度 314日
平成元年度 295日
令和2年度 267日
令和3年度 277日

※令和4年度の臨時休館

・台風14号接近に伴う臨時休館

令和4年9月17日(土)～令和4年9月20日(火)

第2章 館の事業

第1節 展示

(1) 企画展

○企画展：立切遺跡・横峯遺跡 国史跡指定記念特別企画展「旧石器時代の種子島～立切遺跡・横峯遺跡～」

期 間：令和4年11月1日～令和4年12月25日

内 容：立切遺跡・横峯遺跡は令和4年6月17日国史跡に指定の答申を受けた。立切遺跡・横峯遺跡は後期旧石器時代初頭における種子島の環境とそれに適応した人々の生活痕跡を知ることができる重要な遺跡である。本企画展では、両遺跡の出土品を展示するほか、島内さらには鹿児島県内の旧石器時代の遺跡について紹介し、地域の人々に遺跡についての興味・理解を促進することを目的に開催した。

(2) エントランスホールの展示

令和4年度から、「語り部が選んだ郷土館の逸品」など、エントランスホールを活用した積極的な展示を新たに展開している。

○語り部が選んだ郷土館の逸品コーナーの新設

令和4年4月20日から、新たな取り組みとして、『語り部が選んだ郷土館の逸品』コーナーを開設した。このコーナーは、広田遺跡ミュージアムのエントランスホールに設けられ、広田遺跡語り部の会の会員が選んだ郷土館のおすすめ資料を紹介するものである。

第1回 「先人の知恵がつまった昔の料理道具」

企画した語り部：平島強

期間：令和4年4月20日～9月30日

内容：食に関する資料展示で、昔のお膳・食器類・五徳・鉄瓶等を展示

第2回 「山本直純に関する資料展示」

企画した語り部：峯山弘子

期間：令和4年10月1日～令和5年1月19日

内容：山本直純音楽記念室内にある指揮台・指揮棒・受賞盾・受賞メダル・家族写真パネル・説明パネル等の展示

第3回 昔の砂糖すめの様子

企画した語り部：作本奈歩

期間：令和5年1月20日～3月31日（予定）

内容：砂糖すめ(黒糖づくり)に関する資料展示で、砂糖すめの木工ミニチュア（池亀次善氏作）、砂糖すめの写真パネル（森越功氏提供）、西之の砂糖すめの冊子等の展示

○「宝満神社秋祭りの情景ミニ展示」

期間：令和4年4月20日～6月30日

場所：広田遺跡ミュージアムエントランスホール

エントランスホールを活用したミニ企画展で、上中の池亀次善氏が製作された「願成就祭の踊り子」を再現した木工ミニチュアの数々を展示した。

南種子町には、中世から伝わる貴重な民俗芸能が多数ある。その代表的なものである宝満神社に奉納される大踊り、中踊りを木工ミニチュアで表現したものが展示した作品である。作者の池亀次善氏は、毎年、郷土文化をテーマとした木工ミニチュアを製作し、ふるさと祭りで展示発表してきた。また、製作されたもののうち優品については、南種子町郷土館、たねがしま赤米館に寄贈され、子ども達に郷土文化を伝える貴重な展示資料として活用してきた。

コロナ禍で、ふるさと祭りが2年連続で中止と

なり、発表の機会が失われていることと、令和4年度は、「種子島の盆踊」調査事業の最終年度にあたり、郷土芸能文化の発信を行うことが望まれることから、本企画展の開催を行った。

木工ミニチュアによって、次世代を担う子ども達が郷土文化を身近に感じてもらうとともに、南種子の豊かな芸能を内外に発信するとともに、郷土教育の充実に資することも目的とした。

(3) イベント

○ヒロウィン・ナイトミュージアム

日時：令和4年10月30日（日）

内容：本年度は、10月30日（土）17時～20時に開催した。ハロウィン風に飾りつけられたミュージアム館内に隠されたヒントを探して、クロスワードパズル形式のクイズラリーを解き、広田遺跡のナゾを学ぶことを中心とするイベントとなった。他にも、貝などが飾られた石に絵を描く体験ワークショップや、南の貝の道をイメージしたミニ・コンサート、本格的なハロウィン風撮影ができるフォトブースなどのコーナーが設けられ、参加者は、趣向を凝らした仮装姿で、夜の博物館を楽しんだ。ヒロウィン・ナイトミュージアムは、広田遺跡語り部の会の皆さんとの共同で行っているイベントで、語り部の皆さんも恐竜などに仮装し、参加者を楽しませたいと尽力された。

第2節 教育・普及啓発

(1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員

令和4年度は、学習効果を高めるという観点から、小学校4～6年生までを対象とし実施した。この事業は、種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業で、今年度は立切遺跡・横峯遺跡が国指定となることを受け、「先史時代の種子島を学ぶ」をテーマに実施した。所定の課程を修了した受講生には、ジュニア学芸員認定証を発行している。

ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成26年度	19	5	0	24人
平成27年度	21	6	0	27人
平成28年度	28	8	1	37人
平成29年度	27	3	0	30人
平成30年度	53	0	0	53人
令和元年度	50	0	0	50人
令和2年度	80	0	0	80人
令和3年度	60	0	0	60人
令和4年度	35	0	0	35人

令和4年度活動

○第1回「(1)ミニチュア石斧アクセサリーを作ろう！

(2)郷土芸能について学ぼう！」

日時：令和4年6月18日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡ミュージアム

講師：小脇有希乃・石堂和博

内容：第1回目は、広田遺跡ミュージアムで旧石器時代の「磨製石斧」アクセサリー作りを体験した。滑石と呼ばれる柔らかい石を、海辺の丸石を使って、古代の方法でみがきあげていくと、自分だけの「磨製石斧」アクセサリーができあがり、参加した児童は、お互いに見せ合って喜んでいました。

○第2回「横峯遺跡・立切遺跡現地バスツアー&カメラ・スマホで遺跡の写真を撮ろう！」

日時：令和4年7月16日(土)13:30～15:30

場所：横峯遺跡・立切遺跡

講師：小脇有希乃・石堂和博

内容：第2回目は、国史跡となる横峯遺跡・立切遺跡を訪ねる、学芸員による遺跡の案内バスツアーを開催した。参加した児童は、遺跡から見つかった3万5千年前の落とし穴の謎などを熱心に学習した。

また、カメラで遺跡の風景などの写真を撮影するワークショップでは、自慢の1枚を選び、「わたしが撮った遺跡の魅力」を発表しあった。

○第3回「横峯遺跡から学ぼう！」

日時：令和4年9月17日(土)13:30～15:30

※台風14号接近に伴い中止

○第4回「ヒロウィン・ナイトミュージアム」

日時：令和4年10月30日(日)17:15～19:00

場所：広田遺跡ミュージアム

○第5回「宇宙芸術を体験しよう！」

日時：令和4年11月23日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡ミュージアム 講師：千田泰広

内容：講師に、現代芸術家の千田泰広氏を招いて行った。この講座は、種子島宇宙芸術祭に千田氏が出品されている作品のミニチュアを製作することで、宇宙芸術を体験することを目的とした。ワークショップは、アルミの棒と糸を用いて、工夫を凝らしながら、思い思いの形のミニチュアを製作する形ですすめられ、講師の千田氏による「みんな自由な発想を大切にしてください」という呼

びかけに答えて、こども達は十円玉よりも小さい作品を作るなどのユニークに富む作品を製作した。

また、その日の夜19:30～20:00の時間帯に、浜田海水浴場の千田氏の作品「Analemma」の中で、それぞれが製作したミニチュアを鑑賞する体験も行った。

○第6回「昔の遊びを体験しよう！」

日時：令和5年1月14日(土)13:30～15:30

場所：南種子町中央公民館 第1会議室

講師：古市安治

内容：講師に、古市安治先生を招き、「昔の遊びを体験しよう！」と題して体験講座を実施した。

古市先生は、南種子町下中出身で、西野小学校等で教鞭をとられ、現在、県内各地で講演をされている。

講座では、まず、古市先生が宝満池の昔話を題材に自作された紙芝居を披露し、子ども達は熱心に話を傾けた。

つづいて、アコーディオンを弾きながら、子ども達と一緒に、民謡「ようかい」を歌い、歌詞の意味を説明した。

昔の遊びを体験するワークショップでは、お手玉、ビー玉、駒、おはじき、めんこ、けん玉などの昔の遊び道具を体験し、子ども達は自ら創意工夫しながら遊びを通して学びを深めた。最後に古市先生から子ども達へ「故郷を心の宝にして、どこにいてもふるさとを誇れる人になってください。」とメッセージを伝えられた。

○第7回「横峯遺跡から学ぼう！③ 昔の焼き芋、塩焼き体験」

日時：令和5年2月25日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡海岸 講師：広田遺跡語り部の会

内容：今年度、最後のジュニア学芸員講座では、古代の調理法で焼き芋を体験した。これは、日本最古の石蒸し料理の跡として有名な国史跡横峯遺跡の礫群を再現した活動である。広田遺跡語り部の会の方々に講師に、まず、砂浜に浅い穴を掘った。続いて、穴の中にサンゴ石を敷き詰めて、その上で砂浜に流れ着いた漂流木を焼き、石を熱した。次に熱い石の上に、シャニンの葉を敷き、安納芋を並べ、さらにシャニンの葉を被せた後に、砂を薄くかけて埋めた。その上で焚火をすること40分ほどで、ホクホクの焼き芋ができあがった。その他にも、茶の葉やグミの葉を使った昔ながらのお茶を飲み、海水を焚いて塩作りなども体験した。子ども達は、蒸し焼きされた安納芋に舌鼓をうち、「日本最古の調理法でつくった芋がとてもおいしくてびっくりした。」などと感想を述べてい

た。体験が終わった後は、修了式が行われ、広田遺跡ミュージアムの濱田伸一館長から、ジュニア学芸員認定証の授与が行われた。

(2) 学校、一般向け館利用

○学校による館利用

- ・中種子中学校 子供 75 名 大人 6 名：令和 4 年 5 月 18 日(水)9：40～11：10(語り部)
- ・南種子中学校 子供 39 名 大人 5 名：令和 4 年 5 月 18 日(水)12：00～15：30(語り部)
- ・南種子町校長研修会 12 名：令和 4 年 6 月 3 日(金)9：00～12：00(小脇)
- ・南種子町小学校社会科研修 10 名：令和 4 年 7 月 29 日(金)15：15～16：10(語り部)
- ・長谷小学校研修 6 名：令和 4 年 8 月 31 日(水)10：30～(語り部)
- ・広島市立舟入高等学校 7 名：令和 4 年 10 月 5 日(水)14：00～16：00(語り部)
- ・西野小学校 子供 12 名 大人 1 名：令和 4 年 10 月 14 日(金)9：40～10：30(石堂)
- ・大川小学校 子供 20 名 大人 6 名：令和 4 年 10 月 26 日(水)(語り部)
- ・下西小学校 子供 14 名 大人 2 名：令和 4 年 11 月 22 日(火)(語り部)

○一般向け館利用

- ・どんぐり学級 21 名：令和 4 年 5 月 17 日(火)12：00～15：00(語り部)
 - ・大宇都親和会 24 名：令和 4 年 5 月 20 日(金)10：40～12：45(語り部)
 - ・屋久津サロン 12 名：令和 4 年 6 月 8 日(水)11：25～12：25(語り部)
 - ・宇宙少年団 子供 94 名 大人 4 名：令和 4 年 7 月 26 日(火)9：00～14：30(語り部)
 - ・宇宙芸術祭実行委員会 子供 16 名 大人 16 名：令和 4 年 8 月 10 日(水)9：20～12：00(語り部)
 - ・赤米子ども交流 子供 13 名 大人 7 名：令和 4 年 8 月 19 日(金)16：30～17：00(語り部)
 - ・肝付町子ども会イン・リーダー研修 子供 9 名 大人 3 名：令和 4 年 8 月 24 日(水)(語り部)
 - ・深川自治会 15 名：令和 4 年 11 月 2 日(水)14：00～14：30(語り部)
 - ・平山地区サロンしあわせ会 6 名：令和 4 年 12 月 1 日(木)13：00～14：00(語り部)
 - ・飛島村交流事業 子供 大人：令和 4 年 12 月 24 日(土)9：20～11：00(語り部)
- ※総合的な学びの一環で、南種子中学校 1 年生や大川小学校など町内の小中学生が多数来館した。子ども達は、語り部さんの話に熱心に耳を傾け、郷土の歴史や昔の生活と知恵を学んだ。

(3) 出前講座・研修・博物館実習・職場体験等

○南種子中学校職場体験 2 名

令和 4 年 5 月 18 日(水)～令和 4 年 5 月 20 日(金)
内容：南種子中学校 2 年生が 2 名、広田遺跡ミュージアムに職場体験。館の清掃やガイド体験を通じて、働くことの意義を学んだ。18 日に行われた南種子中学校の 1 年生を対象にした古代貝アクセサリー作りでは、後輩に気配りをしながら指導の補助を行った。

第 3 節 管理・運営

(1) 広田遺跡語り部の会

広田遺跡語り部の会は、広田遺跡の発掘に実際に参加したり、発掘に参加した方の子孫であったり、たねがしま古代塾に参加し、島の歴史に興味をもったりした方など、10 名で結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の、平成 26 年 12 月に結成され、それから 3 ヶ月間活動をした後、平成 27 年 3 月の館オープン以降は、広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。現在の会員は 11 名である。

○ 広田遺跡語り部の会 会員 名簿

会長：長田君應、副会長：平畠強、監事：日高久則、佐伯圭子、会計：牛野夢美、会員：兵藤幸夫、峯山弘子、作本奈歩、元川孝男、羽生紀幸、小笠原淳子

※名誉会長：原南海雄、OB 会：向井良隆、長田隆幸、田淵川サナエ、顧問：羽生源志

○ 広田遺跡語り部の会 表彰関係

平成 30 年 2 月 26 日 たねやくきらめき表彰
令和 4 年 11 月 4 日 熊毛地区社会教育関係優良団体表彰

○令和 4 年度の活動内容

令和 4 年 4 月 12 日(火)8：30～12：00 令和 4 年度総会、定例会

令和 4 年 5 月 11 日(水)8：30～12：00 定例会

令和 4 年 6 月 15 日(水) コロナ感染拡大防止の為に中止

令和 4 年 8 月 5 日(金)8：30～12：00 定例会
遺跡の草払いボランティアを実施。長田会長は「お盆に広田遺跡を訪れる皆様が気持ちよく遺跡公園を散歩いただければ、と思って頑張った。」と町広報紙の取材にコメント。また、語り部の会「会報第 1 号」の製作を皆で行っている。

令和 4 年 9 月 13 日(火)8：30～12：00 ハロウィンイベントに向けての話し合い、定例会

令和 4 年 10 月 6 日(木)8：30～12：00 ハロウィンイベントに向けての話し合い、定例会

令和4年10月30日(日)17:00～20:00 ハロウィンイベント
 令和4年10月31日(月)8:30～11:00 ハロウィンイベント撤収作業
 令和4年11月8日(火)8:30～12:00 ハロウィンイベント反省会, 定例会
 令和4年11月21日(月)18:00～21:00 歓送迎会, ハロウィンイベント反省会 場所: 田園
 令和4年12月9日(金)8:30～12:00 定例会
 令和4年12月26日(月)8:30～12:00 大掃除
 令和4年12月28日(火)8:30～12:00 門松づくり
 令和5年1月11日(水)8:30～11:00 定例会
 令和5年2月7日(火)8:30～11:00 定例会
 令和5年2月25日(土)8:30～17:00 ジュニア学芸員最終講座講師
 令和5年2月26日(日) 南種子町生涯学習大会で表彰(熊毛地区社会教育関係優良団体表彰)

(2) 視察等

○行政視察等
 ・令和4年4月7日, 5月6日 トンミー大使 関初美
 ・令和4年7月13日 鹿児島県文化財保護指導委員
 ・令和4年12月16日 鹿児島県観光連盟

(3) 広報

○町広報紙「広田遺跡ミュージアムだより」毎月連載
 ○インターネット動画配信サイト
 種子島みなみたねチャンネル(南種子町公式チャンネル)
 ・動画タイトル「Blessed Cursed 踊ってみた【広田遺跡ミュージアム@南種子町】」
 ・動画タイトル「ZOO 踊ってみた【広田遺跡ミュージアム等@南種子町】」
 南種子町文化協会加盟団体「IRIE DANCE SCHOOL」に所属する高校生が卒業で島を離れる前に, 南種子町のPRをダンスで行いたいと, 南種子町地域おこし協力隊と企画したPR配信。
 ○広田遺跡語り部の会によるフェイスブック・インスタグラムでの情報発信, ホームページの作成

(4) 文化財の保存・管理

重要文化財の運搬
 広田遺跡は, H-II A, H-II B 及び H3 ロケットの警戒区域に設定されているため, 文化庁美術学

芸課の指導により, ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化財センターに搬出することとなっている。

令和5年1月24日(火) ロケット打ち上げに伴う搬出 対応: 石堂・小脇
 平成5年1月25日(水) H-II 46号機ロケット打ち上げ終了に伴う搬入 対応: 石堂・小脇
 令和5年2月16日(木) H-3ロケット試作1号機打ち上げに伴う搬出(※打ち上げカウントダウン時に中止) 対応: 石堂, 小脇
 令和5年2月18日(土) H-3ロケット試作1号機打ち上げに伴う搬入 対応: 石堂, 小脇
 令和5年3月6日(月) H-3ロケット試作1号機打ち上げに伴う搬出 対応: 石堂, 小脇
 令和5年3月7日(火) H-3ロケット試作1号機打ち上げに伴う搬入 対応: 石堂, 小脇

(5) 防火・防犯訓練

行事名: 広田遺跡ミュージアム消防訓練
 日時: 令和5年1月31日(火)
 場所: 広田遺跡ミュージアム

○実施内容
 ・訓練の想定
 広田遺跡ミュージアム高圧電気室からの漏電失火により, 広田遺跡ミュージアム及び同館重要文化財収蔵庫に延焼する恐れがあると想定。来館者の避難誘導, 防火扉の機能確認等。
 ・訓練の内容
 広田遺跡ミュージアム職員による火災発見, 通報, 初期消火(消火器), 重要文化財防火扉の機能確認, 来館者の避難誘導訓練を実施。消火器の模擬訓練
 ・参加者及び役割分担
 広田遺跡ミュージアム職員(5人): 通報, 初期消火, 重要文化財防火扉の機能確認, 来館者の避難誘導。消火器の模擬訓練。広田遺跡語り部(1名): 来館者の避難誘導補助。熊毛地区消防組合南種子分遣所(5名): 講評・指導及び消火器指導等。

第4節 調査・研究

(1) 調査・研究

○調査等
 5月4日～6日 鹿児島大学高宮広土教授
 7月9日～11日 横山の盆踊聞き書き調査
 8月10日 平山浜田の石塔祭(迎え)調査
 8月15日 平山浜田の石塔祭(送り)調査
 9月9日～10日 聞き書き調査「高齢者の戦後地域活動に関する経験知の継承による自分史アーカイブスの構築」(早稲田大学久保田治助教授との共同調査)
 11月14日～16日 種子島の盆踊調査

○講演・論文・書籍等

アーティスト・トーク：「石堂和博 × AKI INOMATA」

プログラム名：アペルト 16 AKI INOMATA
Acting Shells 関連プログラム

主催：金沢 21 世紀美術館

日時：令和 4 年 6 月 4 日（土）

場所：金沢 21 世紀美術館

講師：石堂和博（広田遺跡ミュージアム学芸員）

講演・パネルディスカッション

・講座名：種子島の歴史浪漫

主催：種子島地区人権同和教育研究協議会

日時：令和 4 年 8 月 26 日（金）

場所：広田遺跡ミュージアム

講師：石堂和博

・事業名「鳥取・島根広域連携協働事業」

講座名：遺跡はみんなのもの

日時：令和 4 年 10 月 22 日（土）14 時～16 時

場所：鳥取県米子市「本の学校」多目的ホール

講師：石堂和博

・講座名：第 6 回観光まちづくりカフェ

主催：國學院大學観光まちづくり学部

日時：令和 5 年 2 月 22 日（水）

場所：國學院大學たまプラーザキャンパス若木 21

講師：石堂和博（広田遺跡ミュージアム学芸員）

書籍（分担執筆）

・相川七瀬・石堂和博 2022 「5 章 赤米神事を継承する—精神文化を介した連携と発信, そして還元—」『まつりは守れるか—無形の民俗文化財の保護をめぐる—』 八千代出版

写真図版1 ジュニア学芸員の活動



写真1 第2回 横峯遺跡・立切遺跡現地バスツアー&カメラ・スマホで遺跡の写真を撮ろう！



写真2 ヒロウィン・ナイトミュージアム①



写真3 ヒロウィン・ナイトミュージアム②



写真4 ヒロウィン・ナイトミュージアム③



写真5 ヒロウィン・ナイトミュージアム④



写真6 宇宙芸術を体験しよう！①



写真7 宇宙芸術を体験しよう！②
講師の千田泰広氏

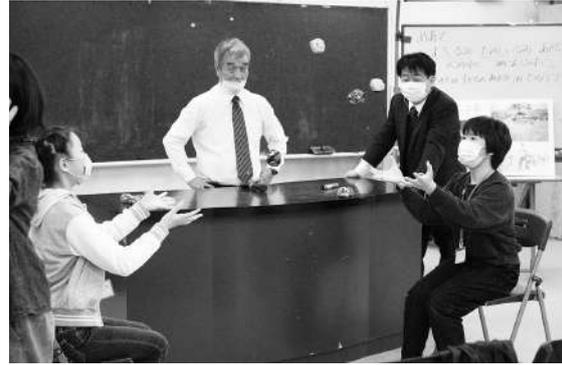


写真8 宇宙芸術を体験しよう！③

写真図版2 ジュニア学芸員の活動



写真1 昔の遊びを体験しよう！①



写真(用) 昔の遊びを体験しよう！②
講師古市安治先生



写真3 昔の遊びを体験しよう！③



写真4 古代蒸し焼き体験①



写真5 古代蒸し焼き体験②



写真6 古代蒸し焼き体験で焼いた安納芋



写真7 古代の塩づくり体験



写真8 認定証の授与

写真図版3 語り部が選んだ郷土館の逸品 ほか



写真1 「先人の知恵がつまった昔の料理道具」①



写真2 「先人の知恵がつまった昔の料理道具」②



写真3 「山本直純に関する資料展示」

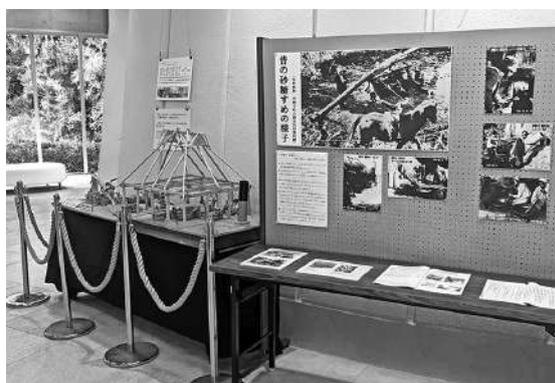


写真4 昔の砂糖すめの様子



写真5 木工ミニチュアで描く宝満神社秋祭りの情景①



写真6 木工ミニチュアで描く宝満神社秋祭りの情景②



写真7 語り部の会による門松製作



写真8 語り部の会定例会 (8月5日)

(2) 研究報告

島間田尾大光山本妙寺の盆踊「大二才、小二才」の復活に向けての取り組み

南種子町文化財保護審議委員 野首久教

1. はじめに

島間田尾大光山本妙寺の盆踊「大(おお)二才(にさー)、小(こ)二才(にさー)」は、本妙寺の落成記念の年である平成14年8月16日に踊られてから、20年以上の伝承が途絶えている民俗芸能である。筆者は、過去に1度、この盆踊を踊った経験があり、貴重な盆踊であるため、ぜひ復活させたいと願っていた。本発表は、コロナ禍を乗り越えて、民俗芸能を復活させた取り組みについて発表するものである。

2. 島間田尾大光山本妙寺の盆踊について

島間田尾大光山本妙寺の盆踊は、島間田尾集落にある法華宗の寺院「大光山本妙寺」に伝わる盆踊で、田尾集落が代々伝えてきた。なお、本妙寺の檀家は田尾集落だけでなく、島間の他の集落や西海地区牛野集落にもいる。

南種子町島間田尾集落に伝わる盆踊は、盆の大踊りと中踊りの大きく2種類があった。このうち大踊りは、私が20代の頃に一度稽古をしたことはあるものの、40年以上前に途絶えており、伝承者もそのほとんどが故人となっているため、復活は不可能となっている。一方で、中踊りである「大二才、小二才」は、平成14年に踊られ、私も1度、稽古だけでなく踊りの本番まで通しで身につけたことがあった。「大二才、小二才」は、8月16日の精霊送りの日に踊られる盆踊である。踊り手の年齢によって、踊りが異なり、昔は大二才がおよそ17～40才の壮年が、小二才は若者(中学卒～20才頃まで)が踊るものであったと民俗学者下野敏見氏は記録している(種子島民俗芸能集)。下野氏によると盆踊の大踊は、カムキと呼ばれる面を被って踊る。種子島の盆踊は、カムキを被るなど、人間でない姿、先祖の霊になりかわることが特徴であるという。そして、盆踊は、踊り手は先祖が歌ってきた歌をそのまま歌い踊り、その心を

引き継いで、お盆の日に先祖の霊を慰めるという大切な意味が込められているということでもある。私も、この盆踊りを踊る時、身の引き締まるような不思議な感覚を持つことがある。

3. 大二才、小二才の復活に向けた取り組み

大二才、小二才については、平成14年に踊られていることもあり、また、伝承者の師匠格である川内田守氏や落水秀吉氏などがご存命で、踊りについて、ある程度の記憶をされていた。この貴重な民俗芸能を絶やしてはならない、復活させたいという思いを抱いていたが、集落の有志の中にも、同じ気持ちを持つものが数人おり、集落の会合などの際に、復活への思いを語り合っていた。だが、コロナ禍となり、多くの行事やイベントが行えない中、復活への取り組みをはじめることが難しい状況が続いていたが、令和3年4月5日に、これではいけないと有志5人が田尾公民館に集まり、どうすれば復活できるかの話し合いを行った。その会合において公民館単位で呼びかけを行うと、いざ、はじめようとしても、民俗芸能については興味を示す人より、興味を示さない人のほうが多くなることが予想されるとの意見が出た。つまり、多数決などになると、復活は見送るという結論になるのではないかと危惧したわけである。そこで、公民館単位ではなく、まずは、自主参加で強制ではない、有志の参加を呼び掛けることにした。

そこで、当時の公民館長にお願いし、集落内の全戸に「大二才、小二才」の復活に向けてのメンバーの募集チラシ(別紙1)を配布した。

だが、チラシで呼びかけた5月15日の19時に、公民館に集まったのは、当初からの5名だけであった。それほど多くの参加は期待していなかったが、1人の参加もなかったの

である。チラシの募集という方法だけでは参加が難しいのかもしれないと考えて、集落の若者（といっても30代～40代が若者という過疎高齢の現実がある）数人に声掛けをしたが、首を縦に振る若者はいなかった。

だが、この結果により、逆に踊りを復活させたい有志だけで復活に取り組むことになったことで、踊りの復活に強い思いをもっている仲間だけとなり活動しやすい環境となった。また、私たちの活動に共感してくれた1人が後に加わり、6名でスタートした。皆で話し合いをもち、次の年の8月16日の精霊送りの日に、この踊りを復活させることを目標に定めた。

復活を決めてからの取り組みもまた苦労の連続であった。1度は踊ったことがあるものの、いざ、踊りを練習してみると、正確に覚えているのは全体の1割ぐらいで、あとは、大雑把に「こんな風をしていたな」程度という状況であった。そこで、映像が残っていないか、南種子町郷土館をたずねたり、民俗学者の松原武実先生に相談したりしたが、映像や音声は残っていなかった。また、集落内の踊ったことのある先輩方に聞いてみようということになり、60～70代のそれなりの経験者にたずねてまわったが、ほとんど覚えてなかった。次に80代の師匠格の経験者が覚えているという情報が入った。師匠格であった落水秀吉氏と川内田守氏の2人であった。川内田守氏は「4～5年前であれば覚えていて教えられたかもな。」「年とともに思い出せなくなった。」と言いながらも、一部の振りは覚えており披露してくれた。特に、出端や引端、そして途中の踊りも記憶され披露してくれた。ただ、小二才のみで大二才については記憶されていなかった。落水秀吉氏は、両方の踊りを覚えていると言うものの、車椅子であったため、手の振りはできたが、足の所作を踊ることは叶わなかった。唄は私がある程度覚えてはいたが、確認のために、唄をよく覚えているという丸野隆俊氏をたずねたところ、一緒に唄ってくださり、大きな違いはなかった。このため唄については早い段階で復活を果たすことができた。なお、丸野氏は田尾本妙寺の盆踊の大踊に使った面（カムキ）

を今でも大事に持っていたので、筆者が譲り受けた。

これらの先輩方の情報を得て、小二才の踊りの練習を5月22日から当初は毎週土曜日19時半から田尾公民館で行っていたが、小二才踊りの目途が立った頃からは第2・第4土曜日に行った。

唄の歌詞は、平成14年8月16日に踊った歌詞が残されており、地名研究会の発行した「みなみたねの民俗芸能」に収録されたものを参考にしていたが、下野敏見氏の「種子島民俗芸能集」に収録されているものと一部歌詞が違うことがわかった。歌詞の吟味をする中で、会員の一人が、過去の練習の時に、「ワルサ、ワルサという歌詞が先だ」と指導されたことを明瞭に記憶しており、そのことから、下野氏の採集された歌詞のほうが正確であることがわかったため、以後、下野氏の採集された歌詞をつかうことにした。

唄の調子について、大二才は、聞いている人の涙を誘うように唄いなさいと指導されたという話を聞き、そのことを注意しながら唄うようにした。

唄よりも問題であったのが踊りの所作である。小二才は、令和3年の秋頃には唄と踊りの所作いずれもどのようなものだったか判明し、練習もほぼ完了した。ところが、大二才については踊りを通して覚えているものは誰もおらず、わかっているのは、唄の歌いだしの部分の所作だけであった。映像を再度徹底的に探したものの、やはりどこにも残っていない。そこで、私たちは、「わからない部分は、みんなの臆げな記憶をつないで作ろう」としたものの、ほとんど手がかりはなく、結果的に私に任せるといこととなり、私なりにこの盆踊の所作の特徴を把握し、唄にあわせて試行錯誤しながら、大二才の踊りの振り付けを行った。心掛けたことは、難しい振り付けにはしないということで、それは次の世代への伝承のしやすさを念頭に置いたもので、難しいものであればまた忘れ去られる可能性が高く、なかなか踊りが定着しないのではないかと考えたからであった。

会の名前は、練習をある程度積み重ねた、令和4年3月頃に、「田尾兄参志の会（たお

にいさんしのかい)」に決めた。にいさんしは、種子島の「ニサーシ」からとったもので、若者・壮年という意味である。会員は、野首久教、池亀昭次、峰山恒夫、西園義典、川内田龍男、岩坪孝浩の6名である。

令和4年の5月頃に、南種子町役場企画課より、8月7日（日）に開催予定の「種子島トンミーの会」に「大二才・小二才」で出演いただけないかという相談を受けた。会員に相談した所、南種子町民や島外の皆様に披露する絶好の機会という意見をいただき、承諾することになり、練習のギアも加速した。

そうした練習にも熱が入り、調子があがっていった7月頃に、「ロケット祭り」が中止となったこともあり、「種子島トンミーの会」もコロナの急増により中止をすることとなったと主催者の関初美氏（神戸在住）より電話をいただいた。関氏は大変残念そうであった。その後、どうしても種子島に行きたいという方々も多く、旅券をキャンセルせずに来島されるという連絡をいただいた。せっかく来られるのだからと、急遽、田尾本妙寺の境内をおかりして、八月九日に私たち「田尾兄参志の会」で「小二才」踊りと「大二才」踊りを披露することとなった。踊りを披露すると、神戸から来られた20人を超える皆様から大きな拍手喝采がおこり、私たちもとても感激した。また、南種子町地域おこし協力隊が映像を撮影してくださり、とてもよい記録となった。

残念ながら、本番の8月16日の本妙寺での精霊送りの盆踊は、皆様もご記憶のとおり、全国的にコロナが爆発的に広がった時期であり、今年度も中止となったため、披露できなかったものの、種子島トンミーの会に披露し、その映像が南種子町の公式YouTubeチャンネルで紹介されたことで、踊りの復活と唯一の映像記録という目的を成し遂げることができた。

4. おわりに

これらの取り組みは、私たちが悩みながら、考えながら行ってきたもので、本当にこれで良かったのか、他の地域での参考になるのか

自信はないが、伝統文化をつないでいくという意味では、一つの形となったものとして紹介をさせていただいた。

多くの集落などで、民俗芸能の伝承が途絶える原因として、公民館全体などの大きなグループではなかなか継承が困難であるということがあげられるかと思う。私たちは、全体では難しいが、志をもったメンバーが揃えば、民俗芸能の伝承もなんとかできるということを実践で示せたのではないかと考えている。また、大二才の継承の際に直面した課題として、踊りの一部が失われていたという事実がある。その際に、私たちは、踊りの一部が分からないからといって踊り全体を捨てるのではなく、是非はともかく、踊りの所作の一部を創作してでも捨てるのではなく残すという選択を行った。もし、創作しなければ、踊りそのものが失われたわけで、私たちは意義がある行動だったと考えている。この問題は、20年以上途絶えていた民俗芸能の復活をする際には、大なり小なり避けて通れないことであり参考としていただければと思う。

最後に、来年度以降、「田尾兄参志の会」を中心に、本妙寺の精霊送りに「大二才、小二才」の盆踊を披露し、継承を続けたいと考えている。

写真図版 4 研究報告



写真 1 大光山本妙寺



写真 2 大二才踊

写真図版 5 研究報告



写真 3 小二才踊



写真 4 田尾兄参志の会と種子島トンミーの会の皆さん

大兄才一・小兄才一復活について (オオニサー・コニサー)

発起人 野首 久教

毎日のお仕事お疲れ様です。

去る4月25日(日)に数名の有志が集まり話し合いを行いました。

興味のある方、賛同して頂ける方は、来る5月15日(土)

午後7:00頃、公民館に集まって頂けたらと思います。

今後の活動は、踊りだけでなく色々な事にチャレンジする旨

男性の諸君(年齢問わず)一緒にワイワイやりましょう。

宜しくお願い致します。

以上

◎全国でも非常に珍しい踊りで、絶やすのが

もったいないと言う思いからです。

南種子町郷土館 館報

南種子町郷土館 館報 目次

第1章 郷土館の概要

第1節 館の概要と組織 P19

第2節 入館者状況 P19

第2章 館の事業

第1節 展示 P20

第2節 体験学習 P20

第3節 資料収集 P20

第4節 館活動(館日誌より) P20～P27

企画展紹介

「郷土の戦没画学生 日高安典展～遺された作品が訴えかけるものとは～」

第1章 郷土館の概要

第1節 館の概要と組織

(1) 館の概要

名称：南種子郷土館
 所在地：熊毛郡南種子町中之上 2420-2
 設立：昭和61年3月5日
 種別：人文系博物館（民俗・歴史等）
 収蔵資料：民俗 2,174点・民俗芸能 500点・歴史 118点・山本直純寄贈関係 1,129点・地学 32点・動物 21点・植物 1点
 開館及び休館日
 開館時間：午前9時～午後5時
 入館料：無料
 休館日：毎週月曜日・毎月第4金曜日（資料整理日）・12月28日～翌年1月4日

(2) 館の組織

役職	令和4年度
館長（兼任）	濱田伸一（社会教育課長）
係長（兼任）	石堂和博（文化係長）
学芸員（兼任）	豊島巧・小脇有希乃
庶務係（兼任）	吉本利江（～4月30日まで）
文化施設管理員補助（専任）	保坂洋子

(3) 南種子町郷土館管理委員会 委員名簿

役職	令和4年度
委員長	柳田 和則
副委員長	宮里 照夫
委員	大脇 光矢
委員	向井 良隆
委員	野首 久教

開催日：令和4年4月15日
 場所：南種子町中央公民館第一会議室
 協議：入館者状況，令和3年度事業報告，令和4年度事業計画，令和3年度年報等

第2節 入館者状況

年度	計	町内	島内	島外
昭和61年3月5日～平成7年度	20,457	—		
平成8年度	1,207	400	807	
平成9年度	1,081	497	584	
平成10年度	444	201	243	
平成11年度	894	583	311	
平成12年度	855	509	346	
平成13年度	817	347	470	
平成14年度	1,235	598	637	
平成15年度	775	441	334	
平成16年度	1,135	741	394	
平成17年度	634	367	267	
平成18年度	833	407	426	
平成19年度	1,108	625	483	
平成20年度	1,094	548	546	
平成21年度	1,091	610	481	
平成22年度	1,038	537	501	
平成23年度	864	519	345	
平成24年度	839	546	60	233
平成25年度	844	592	62	190
平成26年度	719	531	39	149
平成27年度	581	412	39	130
平成28年度	1,184	773	161	250
平成29年度	1,725	1,015	187	523
平成30年度	1,454	891	261	302
平成31年度（令和元年度）	1,124	864	27	233
令和2年度	689	538	39	112
令和3年度	612	401	38	173
累計	45,333			

第2章 館の事業

第1節 展示

1. 企画展示

過去の企画展から「インギー鶏」のパネル展示開催

期間：令和4年4月28日～7月27日

内容：県指定文化財「インギー鶏」の特徴や指定の経緯、さらにはインギー鶏を大切に育てている学校及び育種会顧問の寺内氏についてパネルで紹介。また鶏に関するクイズもパネルで紹介。

過去の企画展から「ウミガメ展」のパネル展示開催

期間：令和4年7月28日～11月1日

内容：種子島は、屋久島に次ぐ「アカウミガメ」の上陸地であり、ウミガメ監視員が、撮影したウミガメの上陸や産卵の様子を撮影した写真や上陸数の状況をグラフ化したパネルなどを展示、さらにウミガメに関心を持ってもらうため、ウミガメに関するクイズもパネルで紹介。

郷土の戦没画学生「日高安典展」開催 「遺された作品が訴えかけるものとは…」

期間：令和4年8月2日～9月30日

内容：郷土の戦没画学生と知られる日高安典氏は昭和12年、東京美術学校に入学し、そこで知り合った女性モデルを描いたが、未完成のまま出征した。戦争から帰ったら、この絵の続きを描くからとの約束も叶わず、戦没された。

企画展では、日高氏が中学時代に描いた水彩画や東京美術学校時代に描いた油絵・銅版画等を展示し、「遺された作品が訴えかけるもの…」と副題をつけ、来館者に問いかけた。

過去の企画展から 「種子島南種子町宝満池鴨突き網猟」パネル展示開催

期日：令和4年11月2日～令和5年1月31日

内容：宝満池の鴨突き網猟は、江戸時代前期頃から行われているとても貴重な風俗慣習で、県の文化財に指定されている。パネル展では、猟の方法や猟で使用する突き網についてもミニチュアを展示して解説。

過去の企画展から「インギー鶏」のパネル展示開催

期間：令和5年2月1日～3月31日（予定）

内容：令和5年2月26日に開催されたインギー鶏の品評会に併せて、再度、展示を行った。

第2節 体験学習

令和4年度実施した体験学習

割りばし鉄砲づくり：35名

アンギン織コースターづくり：14名

ブンブン独楽づくり：10名

UFO独楽づくり：20名

紙粘土勾玉づくり：37名

貝殻アートアクセサリーづくり：29名

合計：145名（令和5年2月末日現在）

第3節 資料収集

令和4年度の収集品は、以下である。

提供者	住所	資料名 (個数)	備考
戸石助美	西之	西之本国寺 盆踊で使用 した入れ鼓 のパチ（1）	

第4節 館活動（館日誌より）

令和4年4月15日 郷土館管理委員会開催

令和4年4月28日 インギー鶏展パネル展示

令和4年5月3日 南種子美術同好会作品展開催

南種子町美術同好会による南種子町郷土館企画展示室を活用した会員の作品展。コロナ禍で展示の機会がなかなか得られない状況を踏まえ、企画展示室が空いている期間に開催した。令和4年6月30日（木）まで開催。

令和4年6月3日 町立大川小学校見学

令和4年7月28日 ウミガメ展パネル展示

令和4年7月29日 宇宙科学分団見学

令和4年8月2日 郷土の戦没画学生

日高安典展開催

日高安典氏は、上中上野の出身で、第二次世界大戦のさなか、東京美術学校（現東京芸術大学）を卒業後すぐに従軍し、フィリピン・ルソン島で1945年4月に戦死した。その作品は、長野県上田市の美術館「無言館」に展示されている。

企画展では、中学時代や東京美術学校時代に描いた油絵・銅版画などを展示。

令和4年11月2日 種子島南種子町宝満池鴨突き網猟パネル展示

令和4年12月14日 戸石助美氏寄贈資料収集

西之本国寺盆踊で使用され
た入れ鼓のバチ（1）

令和5年1月19日 町立島間小学校見学
令和5年2月1日 インギー鶏品評会に併せて
再度、インギー鶏のパネル展示を開催



写真1 南種子町美術同好会の作品展

南種子町郷土館企画展

郷土の戦没画学生

やす のり

日高安典 展

遺された作品が訴えかけるものとは…

日 高安典氏は大正7年、南種子村に誕生。

幼い頃から絵を描くことが好きだった安典氏は、旧制鹿屋中学校時代に美術の先生からその才能を認められ、東京美術学校（現在の東京芸術大学）への進学を勧められました。昭和12年、東京美術学校に入学し、そこで知り合った女性モデルを描いたが、未完成のまま出征しました。

安典氏は、「戦争から帰ったら、この絵の続きを描くから」と女性に告げて行ったそうですが、その願いが叶えられることはありませんでした。

企画展では、安典氏が中学時代に描いた水彩画や東京美術学校時代に描いた油絵・銅版画などを展示いたします。

お誘い合わせの上、どうぞ来館ください。



日高安典氏



野外制作中の様子



(弟) 芳典氏を描いた油絵

開催期間

令和4年

8月 2日 (火)



9月 30日 (金)

南種子町郷土館のご案内

- ◆ 開館時間 午前9時～午後5時
- ◆ 休館日 毎週月曜日
毎月第4金曜日
- ◆ 入館料 無料
- ◆ 会場 南種子町郷土館（1階企画展示室）



やす のり
日高安典 氏

略 歴

- * 大正 7 年 1 月 2 4 日：南種子村に
生まれる。
- * 大正 13 年：鹿児島市の宇宿小学校
入学。



(教職の父の勤務の関係で郡内や県内の小・中学校を転校)

- * 昭和 5 年：旧制大口中学校入学。3 年生の時に転校。
- * 昭和 10 年：旧制鹿屋中学校卒業。
- * 昭和 12 年：東京美術学校（現在の東京芸術大学）の油画
科入学。
- * 昭和 16 年：戦時下のため、東京美術学校を繰り上げ卒業。
- * 昭和 17 年：鹿児島市伊敷の西部 18 部隊に入営。
8 月頃、満州へ移動。
- * 昭和 18 年：満州のハイラルからメントカへ移動。
10 月、画才を認められ、特別室で 2ヶ月程、
将校会議所に掛けるための絵を描く。
- * 昭和 19 年：満州のメントカからルソン島へ移動。
- * 昭和 20 年 4 月 19 日：ルソン島（フィリピン）のバギオで
戦没（27歳）。

絵を愛し、その全ての情熱を絵に注ぎ込んだ画学生「日高安典」氏!

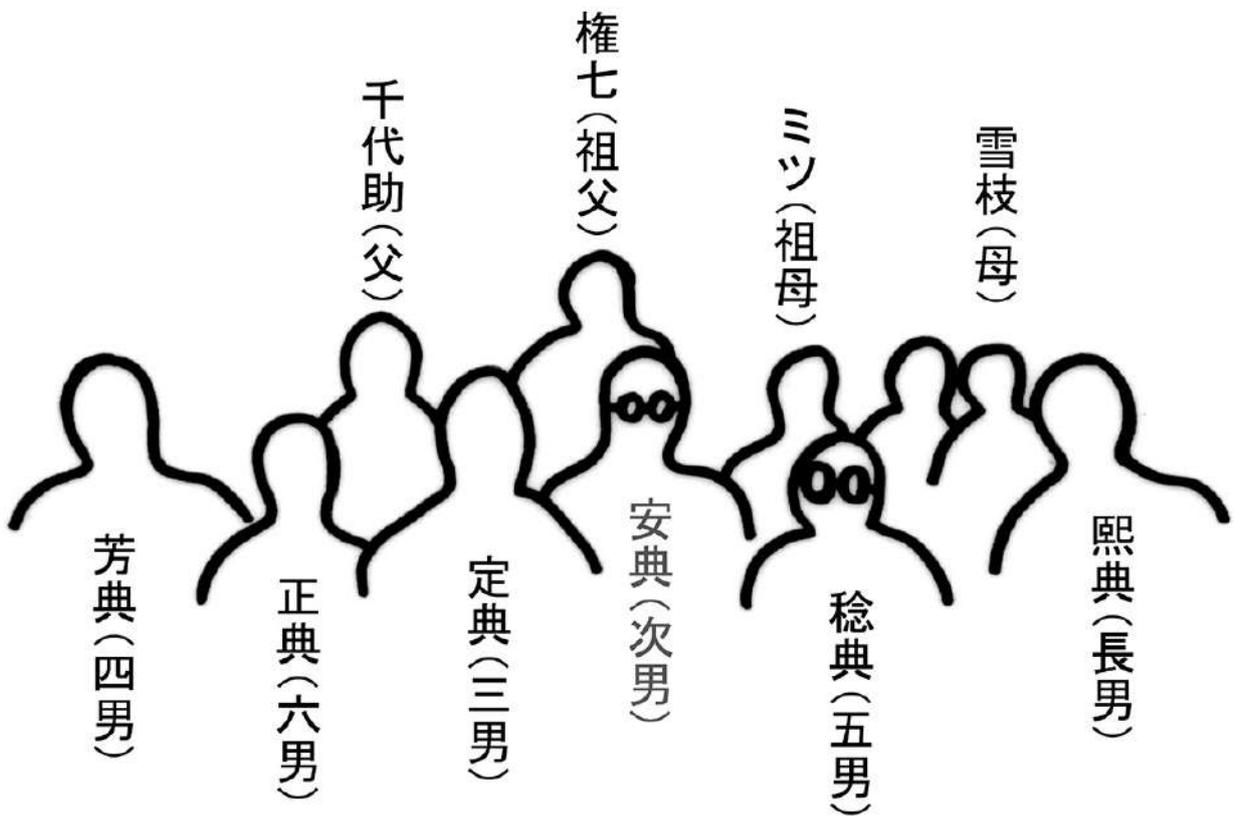
日高安典氏は6人兄弟の次男で、弟の稔典としのり氏によると、「兄は無口だったけど、優しい人でした。でも、絵を描いている時に近寄って行くと、うるさいとばかりに頭をコツンとぶたれ、痛かったことを覚えています。とにかく、幼い頃からいつも鉛筆を持って、絵を描いている兄だった。」そうです。

また、東京美術学校の1年先輩だった画家の野見山暁治（のみやまぎょうじ）氏によると、「とにかく絵を描くことに真剣で、写生に出かければ熱中のあまり、持参した握り飯も食わずに帰ってくるような人だった。」そうです。「芸術新潮（1997年7月号）新潮社」より



*写真は、(弟)日高稔典氏提供です。

日高家の写真 (昭和12年頃)



日高安典 氏について

としのり 稔典(弟)氏より

- * 小さい頃、絵を描いている時にそばに来ると、「近くに来るな！」と言われ、げんこつでゴツンとやられた。(痛かったなあ！)
- * 細工物が好きで、杉の皮をはいで虫食いの跡もそのままに、木工品も作っていた。
- * 旧制鹿屋中学校時代、美術の先生から東京美術学校を勧められた。東京美術学校の受験に2度失敗したが、東京世田谷のおじの家に下宿して、同舟舎でデッサンを学びながら東京美術学校をめざした。(昭和12年東京美術学校入学)
- * 夏休みには生まれ故郷の種子島に来て、種子島の風景や祖父母の肖像画も描いていた。よくレオナルド・ダ・ヴィンチ(画家)の話をしてくれた。
- * おとなしくて、身だしなみがきちんとした「おしゃれな人」だった。

よしのり 芳典(弟)氏より

- * 中学時代、運動会では父母らに配るため、各種目の絵を半紙に即興的に描くことも担当していた。(写真がない時代でしたから)
- * 東京のアトリエ村(桜ヶ丘パルテノン)で、1ヶ月程、(兄)安典と暮らした。
- * 兄の所に通ってくるモデルがいたが、無言館の「裸婦」の女性ではなかった。
- * きちんとした人で、よく整理整頓をしていた。

のみやま ぎょうじ 野見山暁治(東京美術学校の後輩)氏より

- * 東京美術学校の1年先輩で、憧れていた。同じ九州出身であることで、かわいがってくれたのかもしれない。まじめな人だった。
- * ある時、「ドーミエ(画家)の絵はいいよ」といわれたことがあった。無言館に展示している「裸婦」の作品からも、ドーミエが好きだったように、絵具というものが持っている質感を探っていたことがわかる。戦地で描いた「ホロンバイルの夕暮」もすばらしい絵だった。

戦争によって奪われた画家への道！

この絵は、日高安典氏が東京美術学校を卒業する直前に描いた絵で、在学中の最後の作品です。モデルの女性は、安典氏が密かに憧れていた女性ではないかといわれています。安典氏は、「戦争から帰って来たら、必ず続きを描くから！」と女性に告げて出征したそうです。

しかし、その願いは叶えられず、昭和20年4月19日、ルソン島のバギオで戦没し、27歳という短い人生を閉じました。

残されたスケッチブックの余白には、「小生は生きて帰らねばなりません。絵をかくために」という言葉が書かれてあったそうです。

「無言館への旅（窪島誠一郎氏 著）」より



現在、長野県上田市の美術館「無言館」に展示されています。

広田遺跡ミュージアム・南種子町郷土館 館報 第7号

発行日 令和5年3月31日

編集・発行

広田遺跡ミュージアム

〒891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山 2571

TEL 0997 (24) 4811

印刷所

(株)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表 16736 番地 1

TEL 0997 (22) 0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM
AND
MINAMITANE TOWN FOLKLORE MUSEUM

Volume 7

March 2023

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM
AND
MINAMITANE TOWN FOLKLORE MUSEUM